感謝のことば

和　田　健　夫

商学討究の私の名誉教授記念号に臨時号が刊行されることとなり，石黒匡人小樽商科大学教授から巻頭言を，私の専攻分野に関わる多くの研究者の方々から寄稿いただきました。望外の栄誉，光栄の至りであります。皆様に篤く御礼申し上げます。

1975年（昭和50年），金沢大学大学院で布村勇二先生のもとで研究者の修行に入り，北海道大学大学院に移ってからは丹宗暁信先生，実方謙二先生のご指導を受け，1980年（昭和55年）に小樽商科大学で職を得て，在職中は小原喜雄先生のご指導を頂き，2020年（令和２年）同大学を退職し今日に至るまで，研究の上においては，恩師，先輩，同僚等に恵まれました。その間，1997年（平成９年）10月から1999年（平成11年）３月まで，ミュンヘンのマックス・プランク研究所で在外研究をするにあたっては，正田彬先生に大変お世話になりました。北海道大学経済法研究会，NBL独占禁止法判例研究会は長く私の研鑽の場でありました。

経済法を専攻に選んだのは，新しい法分野なので―当時は今よりは未分化の状況にありました―自分にも何らかの貢献ができそうだと思ったからでした。非才を顧みない決断でしたが，それでも何とかやってこられたのは，今述べましたとおり，恵まれた研究環境に出会えたからであります。感謝の念に耐えません。

大学において運営に関わる職についてからは，研究から段々と遠ざかり，それでも，副学長時代までは，論文等書いておりましたが，自らの関心に基づいて追求したものでは必ずしもありませんでした。しかし，執筆している間は大

変楽しい時間を過ごすことができました。有り難いことです。それにも拘わらず，研究者としての私は，結局は中途半端な状態のままであります。恩師は多くの方がすでに鬼籍に入られ，学恩に報うことのできなかったのは誠に以て面目次第もなく，ただ反省するばかりです。

寄稿いただいた根岸哲先生，厚谷襄児先生，稗貫俊文先生を始め諸先輩は，定年で大学を去っても，研究を続けておられます。私もそれに倣いたい。これから修行時代を思い出しながら精進する所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。